

山形県高校総体バドミントン競技 競技上の注意

- 1、本大会は、公益財団法人日本バドミントン協会が定める競技規則、大会運営規程ならびに公認審判員規程に則って行われます。
- 2、選手の変更は学校対抗戦に限り認め、監督会議への提出をもって最終とします。ただし、いかなる理由においても個人対抗戦の選手変更は認めません。なお、申し込み後の追加は認められませんので注意してください。
- 3、会場へは試合開始予定時刻の1時間前までに到着して下さい。1日目、2日目のタイムテーブル最初の試合に出場する学校については、オーダー用紙は試合開始予定の30分前を提出時間の目処とし、以後提出の通告があった際には速やかに進行まで提出して下さい。
- 4、試合の進行状況に応じて、試合開始時刻及びコートを変更する場合があります。放送に注意して下さい。
- 5、試合が連続する場合のインターバルは、次の通りとします。
 - 学校対抗戦
 - ・連続する場合は20分とします。
 - ・2コート以上並行した試合を行う場合に、同一選手が連続して試合を行う際は10分とします。
 - 個人対抗戦
 - ・すべて15分とします。
- 6、ゲーム中のインターバルは、定められたポイントに達したとき（21点ゲームではいずれかのサイドが11点に達したとき、15点ゲームではいずれかのサイドが8点に達したとき）に60秒、各ゲーム間に120秒とすることができます。
- 7、学校対抗戦のベンチに入ることができるのは、当該試合にエントリーされた者のみです。個人対抗戦は各コート付近に2人分のコーチ席を設けます。ただし試合中のプレーヤーに対するアドバイスはラリー中（インプレー中）禁止とします。個人対抗戦においてはプレーヤーのチェンジエンズに連動して、コーチ席も移動するものとします。
- 8、インプレー中は、監督またはコーチがコーチ席から別のコートに移動することを禁じます。
- 9、応援は指定された場所のみで行って下さい。なお、観客席等であつてもうちわを叩いたり鳴り物を使用しての応援は禁止とします。
- 10、学校対抗戦は、全て3点先取で終了とします。
- 11、学校対抗戦は2回戦まで、個人対抗戦は2回戦まで15点3ゲームマッチで実施します。
- 12、選手は次のような行為について厳に慎んで下さい。
 - (1) 汗拭きや靴の紐の締め直しなどで、故意にプレーを中断すること。なお、汗拭きは原則としてインターバル中に行うものとし、主審の許可なくコートを外す場合は遅延行為と認めます。
 - (2) 長いサーバーの静止、遅いレシーバーの構え。
 - (3) 相手を威圧するような行為
- 13、審判員の判定について疑問がある時は礼儀正しく主審に質問して下さい。ただし、これは異議や抗議であつてはなりません。なお、学校対抗戦において質問することが出来るのは当該選手および監督のみとし、個人対抗戦においては当該選手のみといたします。主審の判定に服しない時は、その試合を放棄したものとみなします。
- 14、監督コーチは常に節度ある態度で指導をお願いいたします。また、服装についても大会にふさわしいものを着用願います。なお、コーチ席に着席せず、インターバル時以外にコート周辺で不自然に立ち歩いたり指導を加えるような行為は、警告の対象となりますので慎んでください。また、プレーヤーが観客席等外部からのアドバイスを受けることも禁止です。
- 15、試合中の水分補給は蓋付きの容器を使用してください。なお、ゲーム中の水分補給はインターバル中を原則とします。フロアー保護のため、水分をこぼしたりした場合は当該校の責任で拭き取ってください。
- 16、体育館の開館は2日目、3日目とも午前8時といたします。
- 17、本大会の学校対抗戦1・2回戦は、すべて線審を双方で1名ずつ出し合い、3回戦以降の試合については原則として置賜地区高校生が審判（主審、線審、点示すべて）を行います。個人対抗戦は、原則として置賜地区高校生が審判を行います。また、各種目とも準決勝以上の試合について、主審は可能な限り公認審判員が行います。なお、公認審判員資格（準3級を含む）を保有する者が主審を行う際、線審の判断に明らかに間違いがあると判断した場合はジャッジを変更することがあります。
- 18、大会初日については、試合進行に大幅な遅れが生じた場合、午後6時の時点で関係者（部長、競技役員長、競技委員長、競技審判部長、各地区代表）合議のうえ進行について判断させていただきます。